

はしぎ

北原白秋氏の原詩『からたちの花』に私が作曲したのは四年程前と思ひます。私はこの曲が、今日程の流行を見るものとは思つてをりませんでした。今私は各方面からの熱烈なる希望と懇望とに促されて、原曲をヴァイオリンの獨奏曲に改編しました、

それが獨奏樂器のためへの樂曲であれば、伴奏も自ら異つて來なければならぬものであります。従つて、この改編曲の伴奏は『からたちの花』の原曲とは格段に複雑化されてをります。

私は一方に、私の曲の弘く演奏されるのを喜ぶと共に、それが單なる流行に留るならまだしも、正しからざる趣味を、國民のうちに注ぎ込むことを憂ふので此の編曲に際しても「よき趣味に於て」整へるために充分の力を注いだつもりであります。

然し、この獨奏部を書かれたまゝ演奏し得ない初歩の人々で、しかもなほ、この樂曲を奏でたいといふ欲

求を持たれる方もあると思ひます。さういふ人々のために、私は、この曲の獨奏部がたゞ單なる旋律のみの演奏によつても相當効果を擧げ得るやうに編んだつもりであります。但し、初歩の方々は×以後の Cappeza の部分の演奏を差控へられた方がいゝと思ひます。そして※のある小節の第三拍目から再び始めて、終りまで演奏されたらよからうと思ひます。私はまた此の曲がヴァイオリン・チェロでも獨奏し得るやうにアレンジしました。チェロとヴァイオリンに於ては、然し、樂器運用上に於ける種々な、差異點がありますから、カデンツアの部分はもとより、その他にも、ヴァイオリンのそれと異つた姿を持たしてあります。チェロの伴奏の際には、その點を特に留意していたゞきたい。

私はこの曲を出發點として、我國に弘く、愛好されてをる歌曲その他を、かうした形式に編み直して、今後とも續いて發表したいと思つてをります。

昭和三年三月

山田耕作